

**令和5年度
第4回藤島地域振興懇談会
会議録(概要)**

期 日：令和6年3月13日(水)

場 所：藤島庁舎3階 大会議室

第4回藤島地域振興懇談会会議録（概要）

-
- 日 時 令和6年3月13日(水) 18:00～20:10
- 会 場 藤島庁舎3階 大会議室
- 出席委員 10名
池田 玲子、大沼 富美雄、近藤 直志、今野 良和、齋藤 直美、
齋藤 金廣、萬年 義憲、疋田 勝幸、高山 千代子、丸山 裕司
- 欠席委員 4名
佐藤 智信、板垣 一紀、島崎 紅美、鈴木 結花、
- 市側出席職員
〈藤島庁舎〉 支所長 成田 讓
総務企画課長 小林 雅人
市民福祉課長 出村 真一
産業建設課長兼エコタウン室長 齋藤 敬子
総務企画課課長補佐 後藤 春雄
総務企画課地域まちづくり企画調整主査 齋藤 優
総務企画課主査 村田 喜栄
〈企画部〉 地域振興課地域振興専門員 齋藤 眞一
- オブザーバー 山形県立庄内農業高等学校 校長 坂井 孝朗
- 傍聴者 2名

- 次 第
 1. 開 会 （小林 雅人 総務企画課長）
 2. あいさつ （萬年 義憲 藤島地域振興懇談会会長）
 3. 報 告
 - (1) 第2次鶴岡市総合計画後期基本計画について
 - (2) 第3回藤島地域振興懇談会での質問事項について
 4. 説 明・協 議
 - (1) 藤島地域振興計画(案)について
 - (2) 令和6年度藤島地域主要事業について

○開会

小林総務企画課長

令和5年度第4回藤島地域振興懇談会を開会いたします。
はじめに萬年義憲会長からごあいさつをお願いいたします。

萬年会長

皆さんこんばんは。本日は年度末の本当にお忙しい中ご出席いただきまして本当にありがとうございます。

今年度は鶴岡市総合計画の中間見直し年度に当たり、本日を含め4回の懇談会を開催させていただいた1年となりました。皆様からは貴重なご意見をいただき本当にありがとうございました。

今日は、前回からの議題となっております藤島地域振興計画案、そして令和6年度藤島地域主要事業の二つのテーマについてご議論いただきたいと思います。

皆さんの忌憚ないご意見を願って挨拶とさせていただきます。

○ 報告

(1) 第2次鶴岡市総合計画後期基本計画について

－説明－ 藤島庁舎総務企画課 課長補佐 後藤 春雄

【報告内容省略】

(2) 第3回藤島地域振興懇談会での質問事項について

－説明－ 藤島庁舎総務企画課長 小林 雅人

【報告内容】

10月4日に開催されました第2回の地域振興懇談会におきまして、藤島地域の体育施設に使用禁止の張り紙が多くされて直せないのかというご質問があり、庁舎が所管課の教育委員会スポーツ課に対応依頼する旨の説明をいたしました。1ヶ月後の11月9日開催の第3回地域振興懇談会では、修繕の状況見通しをはっきり回答することができず、再度確認させていただくという回答になりましたことを、まず改めてお詫び申し上げます。

ご質問の具体的な内容は、1点目は藤島体育館のトイレについて、2点目はグラウンドゴルフ場脇のクラブハウスの手洗い場について、3点目は添川の藤島運動広場男子トイレの不具合についてのご指摘について、現在の取り組み状況をご説明申し上げます。

1点目の藤島体育館のトイレは、指定管理の委託先であるNPO 鶴岡市スポーツ協会で行っており、11月初めに修繕を終えたことを確認しております。その直後に発生した箇所についても、12月までに修繕を終えていることを確認しております。

2点目のグラウンドゴルフ場のクラブハウスの手洗い場については、市スポーツ協会が修繕するものであり、新年度に対応するという回答をいただいております。

最後に、添川の藤島運動広場男子トイレについては、市が直接管理している施設でスポーツ課が修繕するものであり、3月初めに3ヶ所すべて修繕したとの報告を受けております。

地域住民の皆様からは、施設の利用時の不具合等につきまして庁舎にご連絡いただければ、所管課の方に随時連絡して参りますので、引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。

小林総務企画課長

第二次鶴岡市総合総合計画後期基本計画の報告と、第3回藤島地域振興懇談会での質問事項の回答を一括でさせていただきました。何かご発言ございましたら、挙手でお願ひしたいと思ひます。

(特になく、そのまま進行)

○ 説明・協議

(1) 藤島地域振興計画(案)について

—説明— 藤島庁舎総務企画課 地域まちづくり企画調整主査 齋藤 優

【説明内容省略】

萬年会長

ただいま事務局の方から藤島地域振興計画の最終案についてご説明がありました。計画の内容は先に委員の皆さんからいただいた意見を踏まえて作成したものですし、鶴岡市の総合計画の後期計画とリンクして作られているものでございます。また、計画期間も総合計画の後期期間と同じ2024年から2028年までの5年間となっております。本日は振興計画全般についてお目を通していただきまして、お気づきの部分がありましたらご意見をいただきたいと思ひます。

委員

今事務局の方から説明をいただき、ここでこれからの藤島地域の地域振興を語るには限界があると感じました。というのは、例えば、三川町なんかをやっている若い世代向けの住宅団地を作って、若い人達を地域に呼び込むものは、この藤島地域の懇談会の中ではテーマにならないわけです。地域ではなくて鶴岡市全体の課題というところから考えますので、例えば藤島地域に若い人達を呼び込むための住宅団地を作ったらどうだということは、そのテーマとしては難しいと捉えざるを得ないということで、限界があるんだなということを強く

感じました。

これまで、鶴岡市全体の総合計画の前期5年間が終わって、それを踏まえて課題を整理して、今後5年間の藤島地域の振興の方策を議論しているわけですが、藤島はこれからどういう方向で元気を出していこうかということを感じ取ることができないように思いました。地域が元気にならなければ、鶴岡市全体の活気が出てこないということは、誰しもわかってるわけです。合併をして、相当年数が経つわけですが、言葉では藤島地域の活性化が市の活性化につながると言うわけですが、結局地域のやることにいろいろな制限を加えられ、旧鶴岡市に右倣えの状況がずっと続いてきたと思うのです。その辺をもう少し考え方を改めて、藤島で独自の、例えば、子育て支援として住宅団地を作りたいといった場合に、それを認めてくれるような考え方が必要だと思います。それができないのが私は残念に思うし、この懇談会の限界を強く感じております。その辺について考えを改めることを私は提言したいと思うのです。

懇談会で実際、言われたことをすべて実現できるかといえば、なかなか難しい面があると思います。だから私は、今後の課題に対してきちんと捉える必要があると思うので、このあたりの考え方についてお聞きします。

成田支所長

たしかに懇談会で、大きなインフラ整備の話が出たとしても、本所所管ということになりますので、なかなか地域庁舎だけでは難しい側面があります。地域振興計画で進める未来事業は基本的にソフト事業がベースになっております。我々は今後の5年間の政策の中で、まずは文厚エリアの整備といったところで、子育て世代から選ばれるような学校、或いはその周辺施設の整備の構想を上げていくということになるでしょうし、また、デマンド交通は今、東栄地区、長沼・八栄島地区でやってるわけですが、今後5年で藤島地区・渡前地区も含めた全域まで広げて、これによっても地域の足を確保し、暮らしやすい地域にしていこうということです。委員から言わせると弱いのではというところは否めないのですが、そういったソフトづくりで地域の魅力を高めていきたいと思っております。

それから、今回、観光拠点化ということも計画の中に入れていただきました。もちろん昨年の東田川文化記念館の国史跡指定がベースになっていますが、この観光拠点化という事業には、商工業者の活性化というねらいを庁舎では持っております。なかなかこれまで人を呼ぶ物も場所もなかった藤島ですが、Hisu 花のイルミネーションや藤が定着してきたこと、さらには、国史跡指定を受けた記念館が隣接していること、こういったことを一つの資源等にして、もう一度商工会或いは観光協会と連携した地域づくりをここからやっていきたいという決意表明の事業でもあります。

いくらソフト事業を力強く説明しても、抜本的なところでの活性化には力不足と言われるかもしれませんが、我々は今与えられてる中で一生懸命、事業展開をやっていきたいと思っておりますし、その部分で今後5年の計画として出させていただいたということになります。

萬年会長

今、商工関係の話題が出てきましたので、何かご意見あれば伺いたいと思います。

委員

商工業者から見ると、農業者はすごく恵まれているなあと思います。前々回の会議で「堆肥を入れる袋が無いからどうなっていますか」というような質問が出ましたが、そこまで、行政が農家のために準備してくれるのかということではびっくりしました。

商工会では鶴岡市や県から応援してもらいながら職務全体を見えていますし、研修会も全部商工会で企画してやっています。支援してもらっているのは、正直費用弁償だけです。なぜ農業だけが優遇され農業委員会もある中で、研修会とか農業全般のことをやらせないのか。そうすれば行政がもっと余裕を持って、若者が定着するまちづくりなどに力を入れることができるのではないのでしょうか。本当に必要な子育てとか若者定着、そういうところにもっと注力してほしいです。

もう一つは、文厚エリア検討事業として藤島中学校の建て替えを機に中心市街地に立地する老朽化した文教施設などいろいろ書いてありますけれども、渡前の活動センターの体育館が70年経過しており、ずっと古いです。なおかつ地域防災力の強化とありますが、南部地域の避難場所は渡前の活動センターや小学校になるのです。昨今、未曾有の水害など多く発生しますが、渡前で発生した場合、体育館も小学校も床上に浸水するのです。どうして今の市長が公約で掲げてくれた多目的施設の整備がこの計画に無いのかすごく疑問に思います。

成田支所長

まず多目的施設の整備からお話しします。前回の12月議会でも一般質問をいただきましたが、なかなか整備する手だてがないということで答弁しております。文厚エリアには、今のところ小中一貫校の予定で各地域に説明に入っている状況です。新しい学校になるとすれば、渡前小学校や東栄小学校が、今度空き施設になってくることがありますので、そちらの方の地域の計画と一緒に施設について考えるということで、12月議会で答弁しております。時間がかかっていますが、これ以上は政策の判断になって庁舎の限界を超えているので、毎度同じ回答で大変申し訳ないのですが、ご理解いただきますようお願いいたします。

それから農業関係にばかり予算がついているというご指摘についてですが、元気事業や、人と環境にやさしい事業というのは、農業者がみずから組織を作り、こういうことをやりたいと作り上げた事業なのです。先ほど申し上げましたが、商工会或いは観光協会ともっともっと協議を深めて、こういうことができないかななどを声にしていただいて、具体的な予算を積み上げられればと思っています。

こういっては失礼ですが、イルミネーション点灯の期間も商工会にはアプローチしております。地元にお金を落ちるようにしなさいということは何回も指摘されておりますけども、

その期間だけでも営業時間を延長して、Hisu 花の方からお客さんを少しでも誘導できないかということで商工会にアプローチはしてるんですが、残念ながらあまり応えていただけていない状況であります。先ほど言った観光拠点化の部分も商工会の方々からも個別に案を頂く、本当にやりたいことを役所と協議して頂くところから進めていきたいと思っていますのでご理解いただきたいです。

委員

一つだけ言わせていただきたいのですが、私達は中心部を良くするために市民税を払っているわけではないです。東栄地区も長沼地区も渡前地区もみんな等しく市民税を払っているわけですので、中心部に重きを置かないで各地区にももう少し目を向けていただければありがたいと思います。

委員

先日の会議を欠席したので資料を見ていたんですけども、中学校の老朽化ということで小中一貫校を見据えた、小学校と中学校が一緒になるというような意見が多かったということで見せていただきました。

正直、私個人としても、子供の人数がこのように少なくなってきた状況の中で、施設の維持なりが大変になってくると思ひまして、私も一貫校を一つの建物として改築するというのがあるのかなと考えていました。

ただそれについてもやはり、それぞれ様々な考え方、意見もあるようですので、それらの意見も踏まえながらまた説明をしていただいで、今後の小中の学校のあり方というものを進めていただければと思います。

それぞれに一長一短があると思います。小学校と中学校を分けての考え方もありますし、また一緒になるということのメリット・デメリットがあると思いますので、それらを今後も継続して審議・協議していただければと思っております。

委員

文厚エリアの検討につきましては、中学校がかなり老朽化しているといったようなこともございますし、子供たちの減少が極端な形で進んでおりますので、本当に子供の教育の面からも、今のままでいいのかどうかといったことを我々も真剣に考えて、ああいった結論を出したわけです。若い親御さんたちからは、早急に結論を出して一貫校の建設等を進めて欲しいと、そういった要望も出ています。この後、藤島地域全体でどのように進めていくのか、お考えもあろうかと思いますが、時間をあまりかけないで推進していただければ大変ありがたいと思っていますところでは。

併せて、前もお話ししましたが、文厚エリアに入っていない東田川文化記念館の中にある図書館等につきましても文厚エリアの方に移して、地域住民が利用しやすい環境を作ってい

ただければ大変ありがたいと思っていますところでは。

子育て世代から選ばれる地域にするためには、児童館等のことも含めて、早期の検討、総合的な検討が必要ではないかなと思っています。6年度はどうするのかと言った部分がちょっと今の段階では見えないので、その辺もう少し具体的に示されたらいいのかなと思っただけです。

萬年会長

これから、住民に対して細かな説明を十分やって頂けるとと思いますが、文厚エリアの進行状況について、今の段階でどういうふうに進んでいるか教えていただければありがたいです。

小林総務企画課長

藤島文厚エリアの計画につきましては、6年度は文厚エリアの整備基本構想を中学校の改築に足並みをそろえながら、そこと歩調を合わせながら、文厚エリア全体の基本構想を令和6年度に策定したいと考えております。このエリア内には老朽化した文教厚生施設がございますので、委員から今、図書館という具体的なお話もありましたけれども、どういう施設が対象になるかということも、教育委員会と歩調を合わせながら6年度に検討していきたいと考えております。

教育委員会では、昨年の教育振興会議の提言で、小中一貫教育、義務教育学校を基本に、議論を加速することとしておりますので、新年度から小中一貫校に関する各小学校区での組織を立ち上げて、地域住民の方々から提言に対するご意見を頂戴することにしております。そして、その義務教育学校に対する取り組みに対する賛否などについて地域の各小学校区の考え方がある程度集約されることを想定しています。

庁舎としてはこのような義務教育学校の取り組みの協議なども注視しながら、文厚エリアの整備基本構想に取り組んでいきたいと考えているところでは。

萬年会長

委員から、子育てのいろいろな施策の件で何かご意見ありましたらお伺いしたいと思います。

委員

私も少子化がすごい深刻だと思っています、藤島で家庭を持って子育てしたいと思うような、何か藤島に魅力を感じてもらおうアピールをできないかなと思うのです。そういったところに予算を使って、例えば婚活支援とかも市でやると、藤島に来るかということとはなかつたりするので難しい面があります。三川町でいろいろやって盛り上がってるのを私は見ているので、藤島にもなにかあったらいいとずっと思っていました。でも、合併して鶴岡市全

体として扱われるので、藤島独自でなにかやるのが難しくなっているのかなと感じています。

委員

委員から話があった通りだと私も思うんです。なぜ三川町があれだけ若い世代が集まって、人口もある程度安定してるかということを考えるべきだと思うのです。

なぜ藤島ができないかということ、子育てなどは市全体の課題だということになるからです。例えば藤島で、三川みたいに子育てを支援するような住宅団地を作らない限りはどんどん三川から差をつけられて、こういう状態にならざるを得ないと思うのです。そこを打破していかないと、本当に藤島の良さというものが出ないと私はずっと考えています。子育ても、国も、地域も、市ももちろんですけども、異次元の対策をとらないと大変だということで、もう躍起になってるわけだけでも、それぞれのやり方を認めてもらって、藤島も羽黒も櫛引も頑張れというようにお互い競争しながら予算を出していくという考え方に立たないと、地域の活性化や振興には限界があります。これは支所長がいくら大きい声を出しても限界があるかもしれませんが、やっぱり何とかやってもらいたいと強く思っているのです。

萬年会長

委員から、藤島は独自性を持った事業をもう少し展開していかないと駄目なんじゃないかというご意見がありました。事務局の方で何かありますか。

成田支所長

はい。そうできるように頑張っていこうと思います。

文厚エリアも学校の改築に伴うものなので、基本的には教育委員会の所管にしかたらないのです。でも、庁舎の考え方として藤島ではこういう施設をこういうふうにしたいということは教育委員会にぶつきたいと思っていますし、こういう手法をとればできるんじゃないかというような提案はできる限りしていきたいと思っています。

それは今のエリアの中で整備しようとしている、いわゆる児童館・学童についても同じように子育て推進課が所管になりますが、庁舎として最善な提案をしていきたいと思っています。

萬年会長

ありがとうございます。ぜひその点も踏まえてやっていただければと思います。

その他に何かございますでしょうか。

委員

今の事項に関連すると思いますが、せっかく小中一貫校というお話が出ていますし、老朽

化によって新しい中学校を作らなければいけない時期なので、若い人たちに「藤島の小中一貫校」を理解していただければチャンスになると思います。そうすれば皆さんの住みたいまちづくり、選ばれるまちづくり、子供たちを通わせたい学校という風になって人も増えるのではないのでしょうか。とらえ方次第かもしれないですけども、藤島の住民がそういう方向に向かっていくという意気込みを、地域の皆さんも庁舎の方も含めて意識の高揚を図ることが大事ではないかと思います。

婚活についても、独身の方が多くいらっしゃいますし、せっかくお嫁さんをもらってお子さんもできたのに若い人が出ていったということをよく聞くので残念に思っています。

その辺も含めて、今後、市民みんなで盛り上げていけるようにしていかないと、周りが沈んでいては来る人も来なくなると私は思っていますので、みんなで頑張りましょう。

萬年会長

要するに藤島地域に住んでいただける人を増やすということですが、2020年の人口ベースにすると、2050年で庄内地区は50%人口減だよという推測がなされています。5年間の見直しをかけたわけですが、人口が減になるということは非常に影響が大きいわけで、事業推進にあたっては、その辺の考え方からすると各委員が言われた通り、何とか人を引き込む施策を持っていかないと、この事業自体できない恐れが出てくるものがあると思います。その辺で一つ、これからの情勢を踏まえた形で事業展開を考えていただければと思います。

委員

農業者の代表として一言言わせていただきます。

この農業振興計画に関してはこの通り進めてもらえれば、未来がある藤島の農業をできるのではないかなと思える訳ですが、60代から80代の農業者が7割を占めています。今後、若い人に後を継いでもらわないと、幾らスマート農業が発展してもこういった計画に追いつかない状況になります。

先ほど以来、婚活などいろいろ出てきましたけれども、30代から50代の農業者の独身男性が多く見られるということで、平成27年から令和2年までの間に、女性の農業者が半減しています。ここら辺もそういう事情だと思われれます。先ほども出てるように女性が藤島に来ていただけるような事業なり、独身男性が触れ合う機会などを企画していただければというふうに思っております。

たがわ農協としても年に1回なんですけど、婚活パーティーを開かせていただいています。それでも成果が上がらないということもありますけれども、そういった企画も必要なのではないかなと思いますのでよろしく願いしたいと思います。

萬年会長

そのほかにございますでしょうか。もしなければこの件、この議案については以上で締めさせてもらってよろしいでしょうか。

(はいの声)

本日のこの中で出されました意見等であとは細かい修正等、反映すべき箇所については若干手直しがあるかと思いますが、その修正の確認等につきましては、本懇談会の会長であります私にご一任していただきたいと思いますがよろしいでしょうか。

(はいの声)

ありがとうございます。それでは異議がないようですので最終案の完成に向け引き続き進めさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いをいたします。ご意見ありがとうございました。

(2) 令和6年度藤島地域主要事業について

－説明－ 藤島庁舎総務企画課長 小林 雅人
市民福祉課長 出村 真一
産業建設課長 齋藤 敬子
地域まちづくり企画調整主査 齋藤 優

【説明内容省略】

萬年会長

来年度の藤島地域の主要事業について、意見のある方は挙手をお願いいたします。

庄農の坂井先生、予算が100万ほど計上される予定になっておりますが、連携事業に関して何かお話はありますでしょうか。

坂井孝朗庄内農業高等学校校長

平成26年から連携事業で財政的なご支援をいただいて10年間、先ほど出た「庄農うどん大作戦」については今年度で5年目、本当に様々な観点からご支援いただいた中、このたび文科大臣の表彰等を教職員として受賞させていただきました。これは本当にご支援の賜物と感謝しているところです。こういった活動がモデルというわけではないかもしれませんが県の企画として今年度から産業系高校のフューチャープロジェクト事業が、次年度からは新規のものとしてDX推進事業等がスタートする予定であります。新年度からの部分については、これまで10年間ご支援をいただいた取り組みを生かして、年明け前後に企画を本課に出して、今後5年から10年ぐらいの部分で次の企画として、様々な取り組みの計画を進めているところであります。

すでにご承知いただいているとは思いますが、人口減少等はかなり切実な問題として受け

とめておりまして、昨年末に庄内総合支庁の方で学校長と進路指導主事等が参集して意見交換会をした中で具体的なデータが出ており、令和元年度から令和5年度までに田川・飽海の高校の卒業生が600人ほど減っていて、要は学校1校分が減っているというふうなことになるわけです。その中で進学者が大体1,400人ぐらいで同じぐらいのレベルを保ってまますけれども、就職者のところがダイレクトに減っており、地域に残る人材がそれだけ減っていることを我々も痛感しております。人口は基本的に全市町村で減少しているということをしっかり認識した上で、我々もこれからどうするかを考えながら進めていかなければならないと強く思っているところです。

本年度の受験生は42名ほどになると思いますが、この数が10年後25歳になった時、さらに20年経って35歳になったときに地域に残ってくれるのかは、今よりもっと厳しい状況があるのだろうと予想しています。やはりそこを何とか定着できる一助となるような教育に取り組んでいかなければならないと思っているところです。そういった意味で、なんとか志願者を確保していけるような取り組みのご協力も含めて、お願いしたいと思っているところです。

萬年会長

若者の定着が問題とされているようですので、何らかの形で事業として盛り込めればありがたいと思います。他にございますか。

委員

ぼっぼの湯をご利用いただきましてありがとうございます。

今のところ入場者数は好調に推移しております。特に源泉を去年工事してもらい、湯量が多くなり、これが好評で他町村からも多く来てもらっています。

また、子育て支援については、藤島の児童館、くりくり保育園、こりす保育園を見ると設備の老朽化がものすごくあると思うんです。特にくりくり保育園に関しましては相当古く、修繕を繰り返しているような状態です。新しいものを建てるのはいいですが、市全体としては今ある施設を有効に活用して長持ちさせる方が良いと思います。何十億も出して立派な建物を建てれば目立っていいかもしれませんが、市民のためにはならないと思います。

そして、藤島の公共建設工事の状況を見ると、こんなにも少ないのかと感じます。町の時代はもっとありましたし、他地域の入札結果を見ても藤島よりあります。庁舎からはもっとがんばってもらいたいと思います。要求しないことにはお金はつかない訳ですし、藤島の建設業者にこの少ない予算で公共事業をやれといってもちょっと無理な話です。鶴岡市オープンだと言いながらも、藤島地域以外で活動するのは難しいという現実がございますので、その辺も考えてもらいたいと思っています。

成田支所長

要求してないように見えるかもしれませんが、必要な予算はきちんと要求しております。道路も橋梁も全部順番がついておりまして、市全体で順番通りに進んでいるので、藤島に順番が回ってきたときに予算が付きます。それから、合併して旧町村でも多くのインフラを持っていて、みな同じように施設が老朽化していますが、そちらの方もなかなか庁舎の思い通りになりません。それでも施設の整備については一生懸命要求しておりますのでご理解いただきたいと思います。

萬年会長

予算には順番があるということをご理解いただければと思います。

委員

まちづくり未来事業については、要求通りとはいかないにしても、それなりに予算がついていますので、庁舎の皆さんの頑張りがここに表れていると評価したいと思います。

お聞きしたいのは、藤島地域で今年の最大の課題と言えば、文厚エリア検討事業でないかと考えております。これを先ほどから話題になっています、子供たち親御さんたちから選ばれるようなそういう地域にしていくという観点からも大変重要な検討作業に入ることですので、今の段階で、具体的にどういう形でそういう組織づくりも含めて進めていこうとしているのかをもう少し砕いて説明していただければと思います。

小林総務企画課長

教育委員会では、昨年の教育振興会議で義務教育学校を基本に検討を加速するようにとの方針を受けまして、新年度に各小学校区で検討組織を立ち上げると聞いております。

文厚エリアについての庁舎のイメージとしては、何か組織を立ち上げることではなく、まず内部で関係課の職員が検討したものを、この地域振興懇談会に検討状況をご報告して、委員の方々のご意見をいただいて、それを反映させながら文厚エリアの整備基本構想の策定を進めていきたいということを考えております。

委員

今お聞きすると庁舎内部の検討作業の範囲だということですが、私の今までの受けとめ方としては、我々だけじゃなく組織を立ち上げて、幅広く様々な立場の方々が検討作業を進めるのかと勝手に思っていたのですが、そういう考え方はないのですか。

成田支所長

手元に資料がなくて教育委員会のスケジュールがわからないのですが、一貫校整備にあたっては、整備検討委員会を立ち上げ、そこには相応の地域の人からも入ってもらう予定

になっております。

まず6年度は、庁舎の整備構想を我々が策定して、7年度に教育委員会の方で小中一貫整備基本計画策定ということで計画を作るのですが、その中に必要なものを盛り込んでもらう予定にしています。例えば、武道館は学校と一体整備ということで盛り込んでもらう予定にしていますし、学童については学校と一体整備になるのか、或いは学校と離れた部分での整備になるのか、ここはまだ内部で検討をしている最中です。基本はやはり学校整備がメインになってきますので、そこに文厚エリアの施設をどういうふうに付帯させていくかということに関係課と調整しながら進めていくこととなります。

委員

これから中学校の改築に合わせた小中一貫の学校というようなことが、文厚エリアのメインになると思います。また、中学校周辺の活動センターや、いろいろな施設があるので、その施設をどうするかということを含めての組織を立ち上げるという考え方であると理解しました。また、その前に内部の検討をまず先に進めるという考えだということもわかりました。

委員

子育ての件で私、2年ぐらい前に三川にある施設みたいなのを、ぜひ藤島に持ってきて欲しいということを要望しました。それが今になってまた出てきているんですが、それは全然反映されてない感じで残念です。

新しく作らなくても、例えば渡前小学校を直したりしてそこに持ってくることもできると思います。孫をだますのにどこへ連れていけばいいかわからなくて、よく三川のテオトルに連れて行きます。藤島にもあのような施設を作っていただければ、少しは若い人たちも藤島の方に目を向けてくれるのではないかと思います。

あと一つ、災害に関して、今すごく災害が多いわけですが、さっきの古い建物を放っておいていいのかなと思います。今能登の方で体育館に住まわれている方が、段ボールハウスもなくて床に寝ている人が大勢いるそうです。ですから、藤島の準備状況も発信して欲しいと思います。私も女性部の方たちに災害が起きたら何をすべきかを話してくれる人を探してほしいと言われていました。そういうのも一度考えていただきたいなと思います。

小林総務企画課長

災害関係は総務企画課の所管でございますけども、今、委員から災害時の貴重な情報が伝わっていないというお話もありましたので、まずどのようにしたら備蓄品の整備状況とかがきちんと伝わるのか検討課題として研究させていただきたいと思います。

成田支所長

遊び場についてお答えします。子育てについて鶴岡市は力を入れており、去年は18歳まで医療費無料になり、さらに今年は給食費が無料になる予定で、一定程度の予算を割いて、一生懸命子育て環境の充実にも取り組んでおります。

それから屋内の遊び場については、藤島だけでなく、各地域から要望が出ているようです。それはどこの地域も同じで、今まだ議決前ですが、子育て推進課から出ているのは、民間の施設のソライに誘導する政策が6年度予算に計上されております。

なかなか屋内遊び場というのは場所も難しく、藤島を優先して考えていただけるものでもなく、今後、公共施設の空きだとかの選択肢も含めて検討していくこととなりますけれども、6年度は民間施設のソライを活用する方向で話が進んでいるようです。

萬年会長

防災に関しましては、昨日、鶴岡市の防災訓練が開催され私と齋藤課長が出席して参りました。能登半島地震を踏まえて、今まである計画、防災計画をどう見なおしていくかという論点から、昨日開かれたわけですが、それ以前に能登半島地震で災害時避難時にトイレや水が足りない、また一番大切なところに物資が足りなかったという形になっております。防災計画の中にも、避難所への物資の確保について載っておりますので、その辺で整備されていくとは思いますが、いかにせん数量はストックされている部分が足りません。こういう震災や災害が増えてますので、おいおいそこに整備されていくと期待はしております。防災会議ではそういうふうになっているようです。その他、今の関係で付け加えることはないですか。

齋藤産業建設課長

昨日の鶴岡市防災計画の防災会議の中で、鶴岡市防災計画の見直しがありました。

1つ目は能登半島地震を踏まえて津波に対する市の行動警戒体制の修正、それから2つ目は国県の防災計画の変更に伴った修正です。藤島地域では京田川の工事が完了する見込みがありましたので、県で水防計画を改定しておりまして、5月に避難判断水位の見直しが図られたことの修正を今回行ったということでございます。

でも最終的な避難の水位、京田川の3.3mにつきましては変更がないので、それまでの間の水防団の待機とそれぞれの判断水位とが改定されている内容です。藤島地域は特に大雨が降ると避難所開設等がありますので、水防については総務企画課と連携して、産業建設課も努めて参りたいと思います。

萬年会長

ありがとうございます。防災会議についてはそういう形になっております。

委員

先ほどの文厚エリアの検討について、市教委を相手に相談するといったイメージで聞こえたんですが、学校施設だけじゃなくて、当然、福祉施設等すべて含めて検討するわけですね。その交渉相手が市教委だとすると、教育予算は非常に少ないので、いろんな複合施設を建設することが難しいと思うんですよ。しかも、先ほど出てるような児童館とかの福祉施設等については、おそらく予算がないのでどんどん削られるばかりだと思うんですね。なので、もう少し幅広い形で検討を進めていって、建築計画を立てるべきではないかなと思います。

教育振興会議の中でも、どういった建物がいいかといった話の中で、高齢者が気軽にその学校の施設の中に入って活動したりできるスペースも欲しいという話もありましたし、放課後、学校の施設の中で、子供たちをわざわざ別の場所に連れて行くんじゃなくて、校舎の中で預かることができる施設もいいといったお話もございました。図書館も一般の方が、学校の図書館に入ってきて借りられる設備があればいいという要望も出されてました。

教育委員会サイドだけを相手にして予算要求してもおそらく削られるばかりで、そういった要望はかなわないと思います。複合的なニーズを考えた複合的な施設が建築できるように、もうちょっと専門的な立場の人からもたくさん入っていただいて、庁舎じゃなくて文厚エリアの検討をお願いしたいです。

それから防災関係の話が出てますけども、非常電源の確保といった部分では、避難所に発電機は一つしか配備になっておりません。それですべて賄えるかっていうと、ほとんど無理なわけですので、非常電源の確保のためには発電機等をもっと増設すべきじゃないかということです。もう一つ気になってるのが、藤島地域だけ非常時の情報のやりとりで光回線を使ってるところで、光回線の場合は地震が起きると切断する可能性が高くて、他地区では別の方法で情報のやりとりをできるシステムになっていると、業者さんからそういったお話も出ております。

藤島だけ危ない、情報のやりとりが災害時にできないとの指摘がございましたので、その辺も再度調査していただいて、情報のやりとりがきちっとできるような設備の整備をよろしく願いいたします。

成田支所長

文厚エリアのことにお答えします。

私の言葉が足らなかったのかもしれませんが、学童については子育て推進課になりますので、そちらと庁舎の方で基本的には詰めていきます。私が申し上げたのは、合築の可能性とか、すぐ隣にする可能性とかということで、教育委員会と申し上げただけでありまして、所管は子育て推進課からは動きません。合築等々の可能性について、教育委員会とも話を進めるということになるとと思いますので、全部を教育委員会と詰めるわけではないです。

小林総務企画課長

防災の件についてお答えします。今のご指摘、経過については承知しておりませんが、藤島地域の光回線がなぜ他の4地域と違うのかについては、設置の経過を踏まえた上で、今後どのような整理をしたらいいのかということも検討し、本所防災安全課とも協議して参ります。

萬年会長

確認の方よろしく願いをいたします。他にございますでしょうか。

(2)についてこれで閉めたいと思いますがよろしいでしょうか。

どうもありがとうございます。

小林総務企画課長

会長からスムーズな進行をいただきまして、そして委員の皆様からは、多くの意見をちょうだいしていただきましてありがとうございました。

(5)のその他に入りますけども、事務局は特にございませんけども、委員の皆様から何かございませんでしょうか。

委員

この地域振興懇談会というのは本当に大事な会議だと思います。今日も4名の方が欠席しており、1回も来てない方もいます。なぜこれのような状況の人を選ぶのか。それは真剣に考えてもらいたいと思います。

小林総務企画課長

これは団体のトップの方だから来てもらうということではございませんが、ご指摘ありました通り、庁舎としてもこの貴重な会に全員に出てきてもらいたいので、委員をお願いする時には、その団体の方にその旨申し添えて呼びかけて参りたいと思います。

委員

以前は、この会議もちょっと早い時間にやっていたと思うのですが、子育てしてる方から、日中無理だということで、今の時間になったと記憶しております。メンバーも変わったことですし、例えばですが昼の3時ごろから5時ごろまでとか、そういう時間帯で検討できないものでしょうか。

成田支所長

以前、この時間の方が集まりやすいということになったようです。それまでは3時頃に開会して夕方まで終わってたのですが、委員は変わっていますので、今提案あったように例

えば、午後からの開催を希望する方はおりますか？

委員

私はこの立場になりますと、いろいろな会議に呼ばれます。県の PTA の連合会の役員では日中開催で仕事を休まなければなりません。休みが続くと仕事もなかなか厳しいです。どちらかと言うと、地元開催だったら夜の方が来やすいです。

委員

農繁期になると、日中は天気次第で大変です。都合つけられる範囲であれば、この時間がベターと思っています。

成田支所長

変えた方が良いという意見は少ないようなので、基本、現状をベースに考えていきたいと思えます。よろしくお願いします。

委員

会議の時間とは関係ない話なんですが、資料の令和 6 年度藤島地域主要事業 4 ページ目 12 番のあたりに高齢者支援事業とあります。これの下の方に、給付事業を継続して実施と書いてあったのですが、障害ある人にタクシー券とかガソリン給油券とかを交付して下さっているの、こういうところに高齢者、障害者のことも書いていただきたいと思いました。

あと、藤島地域振興計画の 3 ページ目にも地域公共交通のあり方など、高齢者が社会参加しやすく、高齢者に特化してるので、ここに障害者も入れていただけたらいいと思えます。

出村市民福祉課長

ありがとうございます。

主要事業の中で確かに高齢者支援事業の、こちらの方は高齢者福祉と介護保険の助成給付事業となっておりますけれども、委員がおっしゃられるように障害者福祉サービスですとか生活保護ですとか、そういったサービスもございますので、その辺は今後出していければと思っております。

小林総務企画課長

公共交通の関係ですけれども、確かに実際、主な利用者が高齢者プラス障害者の方、自分で車の運転ができない方もいらっしゃいます。ぜひその辺を加筆できるように検討して参ります。ありがとうございます。

その他にございますでしょうか。

無い様でありましたら、長時間にわたりご協議いただき、ありがとうございました。

これをもちまして令和5年度第4回藤島地域振興懇談会を終了させていただきます。